

桑名石取祭保存会

くわな いしとりまつり

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回から3号の連載で、地域で受け継がれてきた祭りをささえるグループをご紹介します。2016年に、日本の山・鉦・屋台行事の祭礼33件が、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。三重県では3件の祭礼が該当します。今回は、「桑名石取祭の祭車行事」の伝承に尽力する「桑名石取祭保存会」です。会長の伊藤守さんにお話を伺いました。

―保存会はいつごろから活動しているのですか。

伊藤：石取祭は江戸初期に始まったとされています。保存会の前身にあたる会は、明治時代から神社の組織として、活動していました。平成19年に重要無形文化財に指定されるのを機に、保存会として活動を開始。国の宝として祭を後世へ

繋ぎ、また全国の多くの方に知っていただきたいという思いで、祭の継承と知名度向上に専念しています。

―将来の担い手づくりに、積極的に取り組んでいると聞きました。

伊藤：はい。この祭は旧市街地で行われるもので、周辺の住宅地に住む子どもにとっては縁

会長
いとう まもる
伊藤 守さん



お問い合わせ
TEL 0594-24-6085
(石取会館内 事務局)

桑名石取祭保存会

毎年8月第1土・日曜日に行われる、春日神社の祭事・桑名石取祭。43もの祭車が繰り出し、おはやし方が太鼓や鉦を一斉に打ち鳴らす「叩き出し」が行われることから、「日本一やかましいまつり」といわれている。その祭をささえる保存会では、祭の伝承と、全国に向けた知名度の向上を目的として活動している。

が薄いものです。今回、ユネスコ無形文化遺産に登録されたおかげで、多くの子どもたちにも認知されるようになったと思います。「ユネスコ」という言葉は子どもも知っていますからね。興味を持ってもらうには、体験するのが一番。市内の小学校のふれあい講座に出向き、太鼓や鉦を叩く体験をしてもいいです。市には「いつでも出張講座をします」と伝えていきます。

―手ごたえはどうですか。

伊藤：最近では、祭車を出す町の友だちに誘われて、参加する子も出てきました。ある町では「祭の1日だけでも体験しま

せんか」と、呼びかける動きもあります。石取祭が我々の宝であることを伝え、担い手を育てていく。10年先を見すえた地道な積み重ねが大切だと思います。

―もう一つ大きな目標として、知名度向上についてはどうですか。

伊藤：全国の祭りを順に紹介する「ガイドドリンコ日本の祭り」に、平成25年に取り上げてもらいました。その3、4年前から、紹介映像などを事務局に送り続けたことで実現したものです。その年に、東海3県のテレビ番組やホームページでも紹介してもらいました。

平成27年には、全国山・鉦・屋台保存連合会の全国大会を開きました。「祭サミット」ともいわれる大会を成功させるには、保存会だけでなく、各町

の祭事長や市の協力が必要です。前年の大会へ桑名の祭関係者をお誘いして参加し、市全体で取り組めるよう働きかけました。おかげさまで、三重

県知事をはじめ多くの方が大会や夜祭、懇親会に協力していただき、桑名の石取祭を、大会に出席された全国の祭関係者にPRできたとおもいます。皆さまから「心のこもった良

い大会でしたね」と声をかけていただきました。
―祭期間中は、東日本大震災や熊本地震の義援金集めにも、継続して取り組まれているそうですね。
伊藤：はい。「桑名石取祭復興支援バッジ」を作り、このバッジを付けて祭に参加してもらっています。子どもたちには、バッジを付けることで、祭を楽しめることへの感謝を忘れないでほしいと願っています。義援金は、

保護者をなくした子どもたちが修学に困らないよう、あしなが育英会へ送っています。この活動は数年で終わらず、継続していきたいと考えています。
―今後の抱負を教えてくださいませんか。
伊藤：遠方から見に来られる方に、「楽しかった、来て良かった」といつてもらえるよう、受け入れ体制を整える動きを始めています。外国人向けのパンフレットや通訳ボランティア、駅からの案内表示のほか、桑名の観光や物産のPRにも力を入れていきたいですね。「市民が祭の時に、遠方の知り合いを呼びたくなる」そんな祭にしたいです。



桑名の春日神社に集まった皆さん



小学校のふれあい講座で、子どもに祭体験 ※



太鼓や鉦を打ち鳴らす桑名石取祭 ※ ©デン真

―ありがとうございました。
郷土の祭を誇りに思う、熱い気持ちにあふれたお話でした。伝統ある祭を後世へと繋いでいくために、保存会の果たす役割は大きいといえるでしょう。